

第154回山口西田読書会

第151回（2017年9月16日）のprotocols

◆哲学の会（下関）の方々と合同で大殿地域交流センターでありました。

◆『自覚に於ける直観と反省』 3ページ～16ページ9行目まで

21ページ3行目～最後まで

跋 339ページ5行目まで 読了

その他に 中島 敦 『木乃伊』

（内容）

直観の現実を離れることができない我々は、その中で”自覚”により”新たな企画”を契機として無限に自己を自己の中に写しだそうとする。

カント哲学における”認識”というものは、私がまさにその中に含まれるような主客合一の現実を対象としていない点で本当の現実を扱っていない。

◆哲学的問いについて

無限は繰り返しにとどまり、発展の推進力は反省にあるという理解でよいか

（無限が進む原理（繰り返し）と反省が進む原理（発展の原理）は別ではないか）

◆中島 敦 『木乃伊』の主人公パリスカスについて意見を交換しました。

◆哲学的問い

西田先生は、私と私の外が一体である（主客一体）を”現実”として扱い、”自覚”という言葉で認識を説明し、さらには、自覚が契機になって発展的に自己を自己の中に写そうとする”働き”につなげています。

しかし”発展”という言葉には、二元論的な意味合いがあると思います。

それぞれの体系を持った部分と全体が全単射できることを”無限”として、私と私の外（部分）と（全体）との関係を説明するならば”認識の発展”よりも”世界の存在の在り方”を説明しているのではないのでしょうか。